

人が成長するのには遅すぎる事などありません。職員が切磋琢磨して成長できる組織風土は「支持的風土」と呼ばれます。「ありがとう」「ごめんなさい」「よかつたね」「いつもやろう」と言う四つの言葉を素直に言える風土の事です。私は介護現場では「支持し合う」事が足りなく思ひます。「何かの力になりたい」「困ったときはお互いまごう」と言う当たり前の事が出来なくなっています。「介護技術」よりも前に「人として求められる部分の大切さ」を、「ケアする人をケアする」事を、ご利用者と同じように職員にも「ここにいて良いんだ」「大切にされている」と思える体験を、そして「支持的風土」を築き上げて行く環境が意識して育つ事を願っています。(指示では無く支持ですよ)



また、研修運営委員としては、職員にもっと嚙下について知つて欲しいという気持ちもあり、今年は初めて言語聴覚士の方に来苑をしていただき、特に高齢者の嚙下について研修を行いました。

多くの職員の参加はもちろんですが、真剣に講義を受けている姿勢にも正直ビックリしました。すぐニアドバイスを試したユニット計画を立てていきたいと改めて感じた研修でした。

課題に上がるのが、嚙下障害です。誤嚥性肺炎で入院するご利用者も少なくありません。ご利用者の方々が安心して食事を摂っていたらいいのか?

施設内研修について

嶋田 恵子



高齢者施設として、日々安心して食事を摂つていたらいいのか?

昨年は元号が平成から、令和へと変わり、自分自身もはるな苑での勤続10年を迎えた。

新年にむけて

深代 健一



これまでの経験を活かし、新たな取り組みにもチャレンジして参りたいと思います。

今後も実践に繋がる研修計画を立てていきたいと改めて感じた研修でした。

上がった餃子を皆様あつといいう間に召し上がり「おいしかった」「楽しかった」とおっしゃっていました。

企画以外で思い出に残っているのが施設のエントランスまでお散歩に出たことです。普段あまり外出される機会に少ないご利用者にとって外の景色を見て「紅葉が始まっているね」とい

ご利用者とのふれあい

渡邊 淳



つたような話をしながら、紅葉した木の葉を見るだけでも季節の移り変わりを感じて頂けたように思います。

今後もこのような企画を通して、ご利用者に作ることや食べることの楽しみや四季の移り変わりを楽しんで頂ける企画を提案し、一緒に楽しい時間を作っていきたいと思います。

(指示では無く支持ですよ)